

サロンの人気コース! 和ボディトリートメント & フェイシャルメニュー



「和ハーブボディトリートメント」

和ハーブを使い、お客さまの状態に沿って、リラクゼーションと養生を行なう。まず、カウンセリングで問診票に答えてもらい、簡単に傾向をチェック。お疲れの部位や体の傾きなどを確認し、施術の方向性を決めていく。そして「伊吹春日乃湯」という伊吹山のヨモギやドクダミなどが配合された葉草ブレンドを煮出してタオルに浸し、お腹と背中に温湿布(右ページ写真)。この間、他の部位の施術をし、体を温めていく。アロマオイルは、和精油を中心に3~4種類をブレンド。樹のシリーズや、月桃、ゆず、だいたいなどを中心に使用。また、キャリアオイルも和のこだわりが。ライスキャリアオイル(米ぬか油)や柚子キャリアオイル(柚子種子油)を使用。「たとえば、それぞれスイートアーモンドオイルのしっとり感、グレープシードオイルのさっぱり感に相当するのでは」、と福嶋さん。経絡に沿って気を流すトリートメントを行うのも特徴的。

ボディ:90分 9,450円
ボディ(顔、頭のツボ押し付き):120分 12,600円



「山と海の恵み スペシャルフェイシャル」

肌質や季節により、オイルを取り去る、保湿するなどの選択肢をあらかじめつくり、お客さまのお肌を見極めながら施術の方針を決定。精油のブレンドは濃度の関係で2種類までで、一つは和精油をイン。和精油がたくさん使えないかわりに、月桃ウォーターやクロモジ水などの和ハーブ水を使う。

「山と海の恵み」の海はタラソセラピーのことで、沖縄の泥を使用することも。オイルトリートメント前に山形産のクレイで水分補給をする。山形産は普通のクレイと違って、水を加えるとゲル状のテクスチャーになるのが特徴。これを和ハーブウォーターで溶き、お肌にしっかりしみ込ませる。美濃和紙で作られた薄手のフェイスシートを使うことも。美濃和紙には吸着力があり、お肌の汚れをとってくれる。毛穴ケアが必要な方には、和ハーブウォーターを含ませて冷やしたシートをして使用。普段のお手入れが難しい方でもお肌が生き返っていく。

フェイシャル:100分10,500円
フェイシャル(オプションボディ付き)120分:12,600円

サロンのここがこだわり!

足湯には、ティートリーオイルを入れる代わりに、SASAWASHIというブランドの「くまざさ原液」を大さじ2杯。クマザサは日本各地に自生する笹の一種で、抗菌作用が昔から知られている。足湯には、さらにヒバの木のボール、沖縄久高島の石と、沖縄の塩を入れている(右)またフェイスホールやボディを覆うタオルには、吸湿性に優れ肌触りのよい竹繊維のタオルを使用。パックの拭き取りには、クマザサ繊維を巻き込んだシャリ感のある洗顔タオルを使う。濡らすと適度な柔らかさになり、拭き取りながら優しく角質ケアを行える(左)



Profile
福嶋ゆりい(ふくしまゆりい)さん
「Salon Aromahola」主宰。大学卒業後、アパレルメーカーでのハードワークから、アロマに目覚める。ニールズヤードスクールオブナチュラルメディスンズで学び、2006年国際アロマセラピスト連盟認定資格を取得。その後2009年までニールズヤードナチュラルセラピーセンターのサロンとスクールでセラピスト、講師を担当。現在は、東京・下北沢にサロンをかまえる。

チヨイスしてもらうなど、和精油をご存知ない方にも嗅ぐ機会を提供しています。『アロマと言えはラベンダーでしょ』と言われるのではと最初は心配していたのですが、みなさん抵抗なく『これ、好きかもしれない』という感じで反応がよくて、これは大丈夫そうだな、と確信を持ちましたね』
とはいえ、やはり和と洋の精油には、違いを感じることはあると言います。
「西洋の精油で、女性ホルモンに働きかけるといわれるものと、施術する自分も生理周期に影響を受けることもあります。一方、和精油は、そこまで強烈な影響力というのとは比較にならない気がします。もともと木の香りが多いので、呼吸や、リラクゼーションもしやすいですし、なじみのある香りが多いので、お客さまも私もすーっと入っていきける

感じがあるのかもしれない」
最後に、福嶋さんの和精油やハーブの情報収集法は?
「フィールドツアーで学ぶことが多いです。鎌倉や沖繩で、地元の名産人に引率していただき、その場で植物について教えてもらいます。和ハーブのいいところは、実際に生えている場所に自分の足で行けることです」
粧材などは、フェアの出展者のブースで生産者のお話を聞いたり、大学と提携して研究している講師の講座に出て情報をアップデートしているそう。
「和精油やハーブは身近で助けてくれる存在です。今後は花系の和精油の充実も期待しています」
優しく奥深い和精油。まだまだ発見しそうな未知の分野と言えるかもしれません。

part5 日本の精油の使い方

和精油 & ハーブトリートメントが味わえる
心までなごむ、
和のおもてなしメニュー

和精油やハーブのみに限らず、パックやタオルなどの備品に至るまで日本産を追求。「日本人らしいアロマセラピー」にこだわる数少ないアロマセラピーサロン「Salon Aromahola(サロンアロマホラ)」。
主宰の福嶋ゆりいさんに、なぜ国産の精油やハーブにこだわるのか、また、お客さまの反応などを伺いました。
取材・文◎水原敦子



日本らしいアロマセラピーとは? 「お手当法」から飛躍して

和精油、和ハーブを意識的に使っているサロンは、まだまだ少ないのが現状。そんな中で、セラピストの福嶋ゆりいさんが主宰する「サロンアロマホラ」は、注目すべきサロンと言えるでしょう。

もともとアロマに興味があり、IFA認定のアロマセラピストとなった福嶋さん。英国の精油を使うサロンに勤務していましたが、次第に「日本人の体には、日本のものが合うのではないか?」という気持ちが湧いてきたそうです。その背景には、自然療法に詳しくかつお母様の影響が非常に大きいと言います。

「幼少時、私は体が弱かったので、母が、昔からある日本のお手当法、たと

えば風邪をひいたら番茶と醤油と梅ショウガのような昔からの知恵で、なるべく薬を使わずに世話をしてくれました。それで、私も日本にあるものでできる自然療法に興味を沸かしたんです」
「日本人らしいアロマセラピーとは?」と思い始めた福嶋さん。サロン退職後、和精油の講座などで、国産の精油やハーブを学び始めました。
「アロマの恩師のスクールの講演で、地域活性化事業の一環として和精油を作っていると聞きました。実際に香りを嗅ぐと、すごくいい香りで驚きました。そこで、和の香りが、ハーブティードロップだけでなく、アロマセラピーとして成立していることを改めて知ったのです。それから、サロンで和精油を使ったコースを作ろう、というのが今までの流れです」

お客さまと一緒にブレンドする和精油コースの作り方

現在では、和精油を使ったコースも確立。その反応は?
「和精油と洋の精油をきっちり分けているわけではないのですが、和精油を使う頻度のほうが多いと思います。和精油だからというより、施術を気に入ってくださり、『次回もあれで』という感じでご指定くださることは多いです。私のほうで和精油に洋の精油を足して、何種類か自分でブレンドを作り、